





WIDE COLOUP

メッサーシュミット

Bf109K



カラー特集:ANGのサンダーチーフ ☆ 特 集 ☆ "超音速の零戦" F 一戦闘機のすべて 米大統領新軍事政策の「波紋と疑問」

NOVEMBER

BUNRIN-DO JAPAN

\$3.30













州航空隊のF-105Bサンダーチーフ ANG-ASSIGNED F-105 THUNDERCHIEF

マクガイア空軍基地のエブロンに生ぶ、ニュージャージー州航空隊(ANG)第108戦権戦闘グループ(108thTFG)のF-105B。右上は部隊マーク。

F-105B of 108th TFG, New Jersey ANG, at McGuire AFB. Top-right is its unit mark.

(Photo by F.B.Mormillo)



(Photo by F.B.Mormilio)

(Photo by F.B.Mormillo)

訓練飛行に動陸するF-105B。 An F-105B takes off for training.



飛行前に各部のチェックを受けるF-105日。 F-105B under a close check before flight.



▲▼フライト・ラインで翼を休める(08thTF GのF-105B。108thTFGは州航空隊では唯一 のF-105Bを装備している部隊である。

▲▼ The 108th TFG of New Jersey ANG is the only ANG unit equipped with F-105Bs.



フリーフライトした シャトル・オービター



去る8月12日、シャトル・オーピターの1号機 "エンタープライズ"が、母機のB.747から切り離され初のフリープライトを行なった。初飛行時間は5分23秒。写真はB.747から切り離された瞬間の"エンタープライズ"。

The first shuttle orbiter, "Enterprise", separated from the mother ship, B-747, made a successful free flight for 5 minutes 23 seconds, on 12 August.

SHUTTLE ORBITER MAKES FREE-FLIGHT



このページは、去る7月29日フィニングレー英空軍基地で行なわれた。エリザペス女王在位25周年記念の航空ショーに参加したH.S.ハリアー。上は西ドイツのグーテルスロー基地に駐留している英空軍第3スコードロン所属のハリアーGR.I.下も同じくグーテルスロー基地に駐留している第4スコードロン所属のハリアーGR.I

H.S. Harriers participating in the RAF
"Silver Jubilee Show" at Finningley, 29 July.
Harrier GR.1 of 3 Sqn from Gutersloh, west
Germany, the RAF's base nearest to the East
German frontier. Harrier GR.1 of 4 Sqn also
from Gutersloh.

(Photo by Inter-Air Press)



在韓米陸軍のヘリコプタ





劉27) 航空中隊所属のCH-A7チョーウ CH-47 Chnool of 271st Air Compa



米建国200年記念塗装の航空機



▲チャイナレーク海軍基地にある実験飛行隊 VX-5所属のC-IA。

▲ C-1A of VX-5, China Lake NS

▼空中戦などの仮想敷機に使用されている V X-5所属のOT-38A。

▼ QT-38A of VX-5. The plane is in use as hypothetic enemy aircraft.





(Photo by Inter Air Press)

SILVER JUBILEE REVIEW AT RAF FINNINGLEY, 29 JULY

エリザベス女王在位25周年記念航空ショー

今年イギリスでは、エリザベス女王の在位25周年にあたるため、国内各地でそれを記念した航空ショーが最大に行なわれている。今月紹介するのは、去る7月29日、フィニングレー英空車差地で行なわれた英空車の記念航空ショーの差加機。上は会場上空を網隊飛行する。ピクター、フォトニング。ファントム、キャンペラー下はよ空より見た展示場。

(Photo by Inter Air Press)

The Royal Review was only the foorth of its kind in the 59 year history of the RAF. Some 200 aircraft took part, with a static display of one aircraft from each of the RAP's seventy odd front line squadyons and from many second line noits. Top is the show flight of Victor, Lightning, Phantom and Canberra. Bottom is the show site.





▲胴体下に英空事機をさげてフライパスする。セントラル・フライング・スタール所属のホワールウイン FHARL IOとそれをエスコートするカゼルHT.3へリコブタ

▲ Opening and closing the RAF display was a flypast of the official Ensign carried by a Whirlwind HAR.10 and escorted by two Gazelle HT.3, all from the Central Flying School.

(Photo by Inter-Air Press)

(Photo by Inter Air Press)

▼鶸恕スコードロン所属のファントムF3F2。同機は垂直尾裏上部に、赤外線ミサイルの警報装置を装備している。

▼ Phantom FGR.2 of 29 Squ. equipped with a modified fin tip containing a heat seeking missile warning device (PWR).





▲オーストラリア空車第6.スコードロン所属のF 1110 第6.スコードロンは、1973年からタイーンズランドのア ンパレー英空車基地に駐留している。

▲ F 111C of 6 Sqn, RAAF from Amberley, Queensland.

(Photo by later Air Press)

(Photo by Inter-Air Press)

▼第5スコードロン所属のライトニングF.6. 機体に進されているカモフラージュ接続は視識しにくいもので、現在使用されている標準的な重要である。

▼ Lightning F.6 of 5 Sqn. The low-visibility camouflage is the standard on the type.





- ▲第2スコードロン所属のジャカーGFI!
- ▲ Jaguar GR.1 of 2 Sqn.

(Photo by Inter-Air Press) (Photo by Inter Air Press)



- ▲ホニントン空軍基地の第208.スコードロン所属のバッ カニ7*S.2日
- ▲ Huccaneers S.2B of 208 Squ based at Honington, the main UK base for this type.

(Photo by Inter Air Press)

- ▼トーネードの先行量推型 2 号機 (通算12号機)。今年の パリ航空ショーに参加した時のナンバーが垂直尾翼に書 かれている。
- ▼ Tornado XZ630. The twelfth Tornado built and the second of the pre-production series.



米空軍のECM機EF-IIIA



グラマン社がジェネラル・ダイナミックスト IIIA を改造してECM 装置を積んたEF-IIIA は、2 機製作され飛行チストが行かわれている。 | 号機は今年3月10日に初飛行、去る6月10日には2 号機が多用透戦所 ECM 装置を完全装備して飛行テストを行むった。この装置はEA-6Bのものと同じALD 99Eを中心とするものである。写真は3月10日に初飛行した1号機

Tests are being held for the new Air Force EF-111A prototypes fitted with electronic tactical jamming equipment, or the so called ECM (electronic countermeasures). The No. 1 prototype flew on 10 March for the first time, and the No.2 prototype on 10 June. The system is to replace the now-retired EB-66. Photographed is the No. 1 prototype.



USAF EF-111 A WITH TACTICAL JAMING SYSTEM



たシャトル・オービター

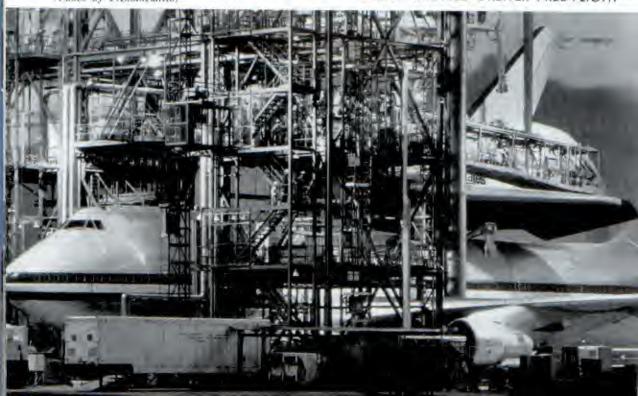
(Photo by F.B.Mormillo)

8月(2日、スペース・シャドル・オービター"エンター ブライズ が ブリー フライトを行なった エドワー ス空軍基地を雕陸したエンタープライズは高度24,100ft で母機のB.747から切り離され、5分23秒の海空飛行後、 同産地のレイケーコトの滑走路に着続した 搭乗したの はF.W.ヘイズかとG.O.フラートン両宇宙飛行士で、フ ラードン飛行士によれば、操縦性は戦闘機のような手ご

(Photo by F.B.Mormillo)

たえであると報告、またヘイス競行士は技術者でもある 関係から、より安全を保つため予定の循環点より1マイ ル雕れた地点で着陸したが、エンターフライズは予想し ていた通りに寸分のくるいもなく作動したと報告した。 左ページ上は日、747に背負われて難墜するエンタープラ イズ。下は着陸硬けん引きれるエンタープライズ。

SPACE SHUTTLE ORBITER FREE-FLIGHT



held at Edwards AFB, 12 August. The commander of the Enterprise was Fred W. Haise, Jr. and the pilot was Charles G. Follerton. After release from the B. 747,

safe. Haise landed about a mile beyond the planned touchdown point. (Left) Take-off. (Bottom) On the back of B.747 (Right) Landing.





初飛行したF-16B F-16 MAIDEN FLIGHT

去も8月8日、ジェネラル・タイナミックス社フォート ワース工場で物座型のF(6日第1号機が47飛行を行なった F-16日は、米空軍で204機、ベルギー、テンマーク、オランタ、ブルウェー及びイランの各空車で90機が構み、予定されている。

空中受油装置付きC-130 NEW C-130 EQUIPPED WITH GET-REFUELING DEVICE

この0 130は、1976年7月に米空軍の要求で改善作業が始まり、今年1月に完成。このほど後間結准を含むすべての確康デストが終了した。写真はKC 135から給油を受けるC-130

The modification work began in July 1976 and completed in January this year. Every test including get-refueling during night hours has been finished. The photo shows it is being refueled by the KC 135.

The two seat F-16B made its first flight at

General Dynamic's Fortworth Airdrome on 8

August. Purchase contracts vary 204 by the

USAF, 90 by the Belgium, Denmark, Holland,

Norway and Ican AFs.





州航空隊の

F-105B"サンダーチーフ"

(Photos by Frank B. Mormillo)



写真のF-105Bサンダーチーフは、アメリカニュージャーツー州マクガイア空車基地にある、ニュージャージ州 低空線の第108戦術戦闘グループ(108thTFG)所属のもので、この意味は州航空隊(ANG)の中で唯一のF-105B使用部隊である F 105B Thunderchiefs of the New Jersey Air National Guard's 108th Tactical Fighter Group at McGuire AFB. A number of the F-105s assigned to the 108th TFG had previously been assigned to the USAF Thunderbirds for a short time.



The destination is North Carolina.

タキシング中のF-105B。同機の特徴である関体中央に取り付けられた主翼、大きなフラップ。長い脚などが良くわかる。

Note the main wing fixed on the fuselage sides' center, large flaps and long landing gear.







訓練に向うド・105日。主翼には450ガロンの燃料タンク。 胴体下面中央には訓練嫌弾用のディスペンサーを装備し ている。キャノビー下の胴体に書がれているのは 108th TFGの部隊マーク (カラーページ委照)。 When the original squadron was formed during WWI, most of the first volunteers came from Princeton University. Since the university's symbol was the tiger, this motif was adopted as a squadron badge. (cf. color page)

エブロンで整備中のF-105B。細くで高い垂直尾翼、可 変式の排気ロノズルなどが良くわかる。

The vertical tail is slim and tall, and the exhaust nozzle is of the variable type.















Okinawa based US Marines' CH-53 Sea Stallion now at Camp Humphreys for training.





キャンプ・ハンフレイズのフライトラインに並ぶ、第271航空中隊所 属のCH-47チヌーク攻撃支援へリコプタ。

CH-47 Chinook attack support belicopters of Army 271st Air Company in a row at Camp Hamphreys flight line. エプロンで整備中のCH-47チヌーク。



フライイン'77 で飛行した自作機たち

去る8月27、28日の両日、埼玉県にあるホンダ航空桶川 飛行場においてスポーツ航空プライイン、77が行なわれた。 大会では自家用機のフライバイ。モーターグライダの飛 行をはじめ、レッド・イーグルの曲技飛行などが行なわれたが、ここでは、この大会の中で飛行した自作機を組 介しよう。





横浜でソバ屋をしている沢野四郎氏が製作し た"ミスター+スムーシ"。

"MR SMOOTHIE" made by S. Sawano Yokohama.

飛行を終え着陸する浜尾豊氏が製作した"しおからとん ぼ"。全木製だが曲技飛行も可能な複葉機。

"SHIOKARA TOMBO" by Y. Hamano. Wooden-made, but capable of acrobatic flight.



Japan's aero enthusiants feted the Flyin' 770 at Okegewa airstrip, Saitama Pref., 27 and 28 August. Some 50,000 visitors enjoyed the show including homes made planes' flight and the acrobatic flight demonstrated by the 'Red Eagle' team. Major home-made planes participated in the

event are introduced.





"HEAVY GREAT LAKE" by Y. Naka

ある。

"STAR-DUST" by students of KOKU KOSEN (aviation school)









最近、米海兵隊に配備された C-9日。 7 月末 嘉手納基地で撮影(昭島市 山内裕之)。 C.9B assigned to US Marines, of lete. Kadena AB, Okinawa, July 1977. (Photo by H. Yamauchi, Tokyo)



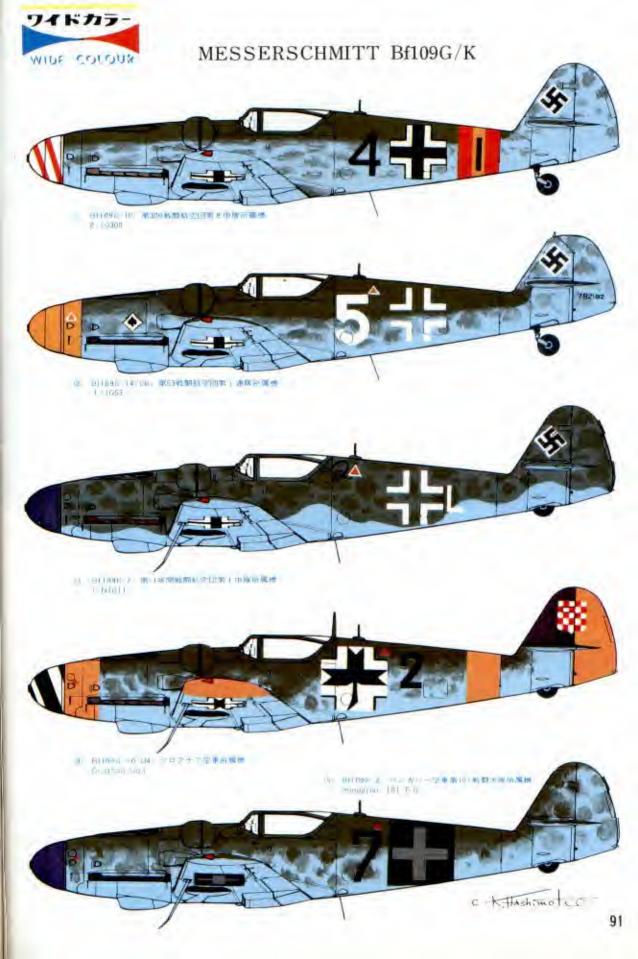
8月初め嘉手納基地に着陸する、空母ユーラルシー搭載のVF・194所属のF-4J(相種原市 橋本陸)。

F-4J of VF-194, USS CORAL SEA. Kadena, August 1977. (Photo by T. Hashimoto, Tokyo)



厚木基地に着陸する、VQ-1所属のEA-8B。同機は空 段エンタープライズに分遣隊として搭載されているもの 54 (東京都 竹内義久)。

EA-3B of VQ-1, USS ENTERPRISE. Atsogi. (Photo by Y. Takeuchi, Tokyo)



テレビ映画 に出演する

博物館の大戦機ス・オブ・フェーム



A6M5 Zero, restored to flying condition by the Planes of Fame Museum in Calif.

カリフォルニア州チノ空港の"フレーンス・オブ・フェーム" 博物館で、テレビ映画出演のために復元されている電報52年、飛行可能なほと良好な状態で保存されている。上の写真の床に置いてある画舫はT 5のもの。









テレビで 活躍する

"プレーンズ・オブ・フェーム" 博物館の大戦機

World War II Wings of the Planes of Fame Museum. (Photos by Frank B.Mormillo)

A6M5 Zero which is being restored to flying condition.

カリフォルニア州チノ空港(Chino Airpari)内にある"プレーンズ・オブ・フェーム" 博物館は、数多い二次大戦機を保管していることで有名であるが、このほどその一部がアメリカのテレビ映画 "バー・バー・ブラックシーブ"(Ban

Baa Blacksneep)に出演することになり、スタッフたちは 整備によねんかない。ここに紹介するのはその一部で、写 真上と下は飛行可能な状態に復元中の零戦52型。上の写真 後方には零戦に似せて改修されたT-6が見える。





「上・五上」照ページと同じれ "ブレーンス・オブ・フェーム"の零帆記型 この機体は米軍がサイバンで捕獲して本国に持ち帰ってテストしたものであるか。同機物館には、これより思い状態ではあるが、 とうし機の器概52型を保存している。ところで、世界中に突戦は何概現存しているのであろうが、アメリカのスミソニアン博物館の調査によると、記機が確認されている。なかにはオーストリアのウォーバート航空博物館のように、尾翼

Curtiss SB2C 5 Helldiver & Grumman F6F 5K Helleut.

Mitsubishi A6M5 Zero Fighter

のみというものあるが、そのほかはニュージーランドのオークランド専物館に「機 (21型)、英国のロンドン帝国博物館に「機(52型)、アメリカでは上記の2機と、ライトパタソンの空軍博物館に「機(52型と63型)、個人経営のジュージア航空博物館に「機(52型)、ニューキニアのパフア航空博物館に「機(52型)、それに日本の航空自衛部が保管している「機(52型)である。

(Photo: F.B.Mormillo)









Mitsubishi A6M5 Zero Fighter

(Photo: F.B.Mormillo)

(在下) これもテレビ映画 "パー・パー・ブラックに ープ"に出演する「ブレーンズ・オフ・フェーム」のS BZC-5ヘルタイパー(左)とFBF-5Kヘルキャット 零転 と同じくアメリカの代表的な艦上戦闘機であるFGFは、 看機として保存している航空博物館も多く、世界中の航 空博物館に14機が保管されている。

From right to left, SB2C-5, F6F 5K and F4U Cursair

"プレーンズ(オブ・フェーム"では、この機体のほか

にもう!機のF6F-5(シリアル98879)を持っている。 (下) 整乳した"生消機"、右よりSB2O-5の尾部、F6 F-5%、F4Uコルゼア、コルゼアは個人の所有になってい るものを借りうけたもの。

(Photo : F.B.Mormillo)









Grumman TBM-3 Avenger

上 主翼を折りたたんた TBM 3 アペンジャー機上 攻撃機。これも"プレーンズ・オブ・フェーム"の保育 機。向機のシリアルは 91264、アペンシャーはアメリカ のエアレースなどで現在でも読んでいる機体もあり、世 界の航空博物館に15機が保管されている。

Curtiss SB2C-5 Helldiver

(Photo: F.B.Mormilla)

「下」 "ブレーシス・オブ・フェーム"のカーチスSB2 じ-3ヘルダイバー 同機のシリアルは 19075. ヘルダイ バーはこれ以外にスミソニアン航空宇宙博物館(5020 5)、タイ変運博物館、デキサス州の"コンフェグレート。 空軍"博物館(SB2C 5)がそれぞれ(機ずつ保有してい \$

(Photo: F.B.Mormille)





F4U Corsairs

上」F4Uコルセアを前に撮影中 このテレビ映画"バー・バー・フラッタンープ"(Ban Ban Blankshoen)は、 "バピイ"の愛称で呼ばれた米海兵隊の二次大戦のエース、グレゴリー・ボインタトンが任(Maj Gorgary "Pappy" Boyington)と彼の所属した第814 海兵戦闘飛行隊(VMF-214)をモデルとしたフィクション映画で、ボイングトン少佐は技術顧門として撮影に参加している。写真にあ

Stinson L-5 Sentinel

(Photo: F.H.Mormillo)

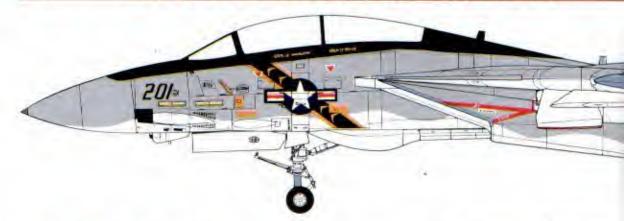
るような多数の二次大戦機の実物が出場するのが見るのである。 飛行中のシーンには、ここにあるコルセアや「 -6の改造機、日 25、それに写真下のしらが主として使わ れる

(下) "ブレーンズ・オブ・フェーム"のスチンソンし 5センチネル L 5 は現在、世界中の航空博物館に15機 が保管されている。

(Photo : F.H.Mormillo)



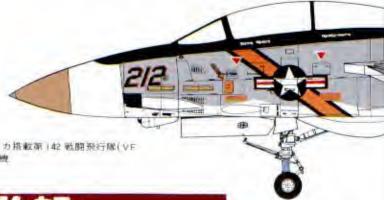
GUNZE SANGYO



GRUMMAN

F-14A





③ 空母アメリカ搭載第 142 戦闘飛行隊(VF (42)所属機

ファンで産業Mr.カラー PS36440 オレンジイエロー インシダニアホワイト 2 % (7) 7 % 3 4 % 00 3 % 34 5 3% (I) 96% 93% (4) - 500 (1) 90% (0) 8 96

配合ガイドの見かた

クンゼ・カラーのピンをレイア ウトした混色パターンは、左のサ ンパーがクンゼ・カラーエンバー で、中央の目離りは混合症を示し、 ひと目類りか10%を示しているか。 厳密な混合物を示しても、あより 重要とはいえない値々の色感とか モデル主義上の保性という問題も あり、まくまでも、この混合比は 目定とお考し願いたい



ではまたい。この ハイモデリングのための塗装マニュアル



・空母ジョンF.カネディ、(QV 67)に増慮する第14戦闘 飛行隊(VF)4) "トップ・ハッタース" のF (4A)

(Official U.S.Navy Phote

グラマンF-14Aトムキャット

(402)

立F-14Aトムキャットの塗装☆

四子 ラテー・3.11時代からまなごみの海時マークを ・ たVF 84(栗84戦闘員「陳)"・・リーロニャー 所属 例で、サきはラントカルウロン(FS.16440)と下値インコープーフロック (FS.17875)の乗り到け、フラップ、ユデーフ・カー・ファーフィーの サンプは、ある一色質の可能は会属の生態、単値配置、 サンプは、カー・ファートに同辺部をよび樹首の帯は悪い。 地には、帯の両コチが用の尾翼上端はオージン(エローで、 限りのサイトナー は黒にオンシージェは一のき軽っ 3-2 で、る

ィンのフチとり共に無となっている。脚カバー内面は図 (D) - ③まて映画の基本産業で、インシラニアポワイト。 脚カバーの原併は赤の警告産業のフテドでがある。

図③ で収りメリカ搭載のVF-142(単142以間押行隊)の所属機で、基本定核は図③と同じであるが、機育が向と異色っぱいクレーであるのが異なる。胴体のストライプは黄色に属フチっき、塩直延嚢のマーツはオレンジインによるシップ・アーラルコードはオレンのようにオレンジインローの数十マーの内フィンはインシッニアがフィトで、オージーオエローのファーをとなっている。又では全部無

St. St. No.

研伝の作品軟解機F-14Aトムキャットのブラブレーン・キートも出それってきたよって、デーキングのバリエーンと一も次頭に多りなり、なかなか楽しめるモデルである。このような事色塗装の機体を、されいに登録する。は、やはり至りたものの出ないクンとMrスプレーカットを使用したいものである。

(イニストと解り・続き資ク男)



(Official U.S.Navy Photo)

↑ 空母ケネディ **修上**的第22批開刊 行隊(VE 32)"ス ワード・メンドの F 14A

➡ 空役エンター 7942[OVN 65) 截上の第1 社 置飛行隊 (VF-1) 4462.110 6" OF-14A

♣ 建国200年記 念塗装をした額124 阪開発行隊(VF (24) "ガンファイ タース" のF 14A



(Official U.S.Navy Photo)

(Official U.S.Navy Photo)





メッサーシュミット Bf109G "グスタフ"





メッサーシュミットBf109の後期生産型であるGシリーズ "グスタブ"の音機をご紹介しよう。Gシリーズは前型のFシリーズの機体に新型のDB605エンジン(1,475

hp)を装備したもので、G-1~G-4までの前期の生産型とG-5以後の後期の生産型に分けられる。耐ページおよびこのページと次ページの写真はいずれもBf 109G-5。





1942年夏ごろから生産に入ったG-5は、DB805Dエンジン(水メタノール噴射で酸昇出力1,850hp)を装備した存在キャビンの機体であった。

107ページの増補をつけて削燥に並んだ各機は、主業 下に20mmのMG151機関終2門を追加装備した重戦制機 型のG-5~R6。

写真左下も著下啪欄(800ガロン)をつけたG-5で、

JG54 (第54戦翻航空団) の所属機。

写真上は生産中の熱帯地用の艤装をしたG-5 - Trop。 手前の機体の関がれたエンジン・カウリング上方に、スーパーチャジャー空気取入口につけられたサンド・フィルターが見える。

写真下はG-5~R6 Tropで 単51戦解釈空団 "ノルダース" 第2連隊(H1・J G51)の所属機である。





このページと次ページは、BF109 G-5につづく生産型のG-6。G-6は非与圧キャビンの健場型で、1943年7月から44年なかばにかけて多量に生産された"ダスタブ"の主要生産をである。基本武装は胴体の13mM G 131機

関銃 2 2 30mm MG 108機関砲 1 のほか主義下に20mm MG 151 / 20機関砲 2 であった。写真上は J G 58 (第 58戦勝航空団) のG -6とG -4。右ページ上は1948年夏、シシリー島で英草にろ獲されたG -6とG -6/R6(右側)。



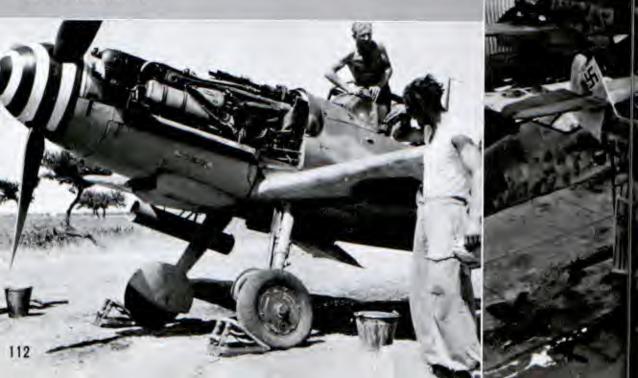




あるが、Gシリーズのなかではもっとも多く生産され、偵察、攻撃型を含めて構造による 改造型もり種類と多い。

写真上は主翼下に20mMG151、20機関泡2門を懸吊装備した重戦闘機型のG-6/R6。 写真下は網体下にETC50/8b爆弾架ミ 4 を装備、両主翼下にロケット弾ランチャーを 1 個すつ席した地上攻撃型のG-8/R2、上面のエンジンカバーをはずして整備中のもので、 エンジンの上に装備された18mmM G 17機関銃が見える。R2の搭載エンジンはDB605 A-1 (1,475hp) であった。

写真右ではメッサーシュミットの最終組み立て工場で生産中のG・6。フレームが少なく。 視界が改善されたガーランドフードをつけている。この新型の機模原風防は、G-6の後期 生産型から採用されている。





DC (C3燃料、MW50水メタノール噴射、難昇出力 2,000hp) を装備したBr109G-10/R3。G-6に(ちゃ

もとエンジン・カウリングの形状が異なっている。G-10 はGシリーズのなかで最高速で、最大速度は690km/h (高度7,500m) であった。







昭和17年10月、初めて採用されたときには、2式艦上値

森殿の名称のもとに、偵察機として使われた。写真の機

体もその2式機値である。(Photo by I. Kemori

日本海軍機写真集



stage of its development, the dive bomber was in use as a reconnaissance plane under the name of "Type 2 Carrier Recon'ce Plane. Phtog'd here is the

carrier recon'ce model. (Photo by L.Komori)



The carrier recon'ce plane, equipped with the liquid-cooled DB600 engine, was faster than the Zero. Accepted as a dive bomber late in 1943 and operationally assigned in 1944. No carriers were

in existence, however. Later, its engine was converted into an air-cooled device and used for special suicide attack purposes. (Photo by I. Komori)







Nokajima Type 97 Carrier Attack Bomber, Model 12 (B5N2, Kate). Six No.6 Bombs (60kg each) were dropped, two at the same time, from the front row.



上) 操作を搭載中の97式程と攻撃機12型。これも原方基地でのひとこまである。97艦攻12型は、柴川塩エンシン(諸昇出力1,000hp・2,250rpm) 接傷で、兵装は後席に7.7mm 凝回機能×1のほかに、800kgが空漁電1発または190kg×1、250kg×2、6の爆弾を積むことかできた。写真は60kg(6番)優弾の積み込み中のもので、原体下面の魚質の懸用部に2発すつ、8種の投下器が取付けられている。前席の操縦席左続にある管機撃乗用の投下レバーをひくと、6発の6番爆弾は、前方から2発すつ順次投下された。

(右上)同じく南方基地の97式離上攻撃機12型。網体下に見える半円形の輪は無菌の膨係器。無器は中心機より300mm 右寄りの位置に、四角3度の状態で取付けられた。右腕柱付根外方に見える主翼で面の線は、主翼の折りたたみ略。 97度攻は解戦ではなばなしい近難をしたが、大戦中、後期には低速がわざわむして横柱も少なくなかった。しかし撃戦をひとまわり大きくしたような外形で、当時としては逃れたされたスマートな騰攻であった。(Photo by I. Komori)





下]ラバウル海軍航空基地(東飛行場)の全乗を示す 珍しい写真。日本海軍航空隊は昭和17年末にこの基地に 進出、南方攻略の拠点とした。派遣された航空部隊は、 昭和18年2月20日にトラックに引提げて組織的な戦闘を

An overall view of the Japanese Navy air hase (East Airdrome) in Rabaul, April 1943. Model 21 Zero fighters are in a row at the apron. The 終える「年数カ月のあいだ、ソロモンの島さの技術をめ ぐって激しい航空戦を展開した。写真は"ラバウル航空 隊"離やかなりしころの昭和18年4月の撮影。エプロン に、薬戦21至が戦機並んでいる(Photo by I. Yoshizumi)

airfield was an important Naval air base in southern operations including the Solomons, late 1942 through February 1944. (Photo by T. Yoshizumi)





上)アメリカに持ち込んでライトフィールド陸軍航空 基地で飛行テスト中に撮影した雪戦21型。機首カウリングにドイツ機のような変った虚装をしている。雪戦は大戦中にもったも広く使われた戦闘機であるが、軽戦直接に日本本土に進駐した私は、東京近郊では本機の姿はほとんど見かけなかった。おそらく先達部隊とともに乗り 込んだ連合軍の航空機"破壊班"が、この販名高い零戦 を実先さにスクラップにしてしまったためと思われる。

(下)これも同じくアメリカのデラウエア州ドーバー陸 軍航空基準でデストされたしば戦争2至。まだ終転前で あったが、テストでは国籍記章その他日本軍機の塗装の ままで飛びまわった。

Front view of Hayabusa Ki*43 Oscar at Dover Army Air Base. Although the war was still active, the captured Oscar flew around the U.S.with Japanese insignia and without incident.

(Photo by the Author)



Although the Zero was the most widely used at all Japanese combat planes. I did not see many of them in the Tokyo area during the immedate post-war period. Perhaps psychologically, the Allied wrecking crews saw to it that the most dreaded and

notorious of the enemy hit the smelters first. The A6M Reisen such here was photographed at

目撃した **日本陸海軍機** の最後

[第3回]

MORE DEAD BIRDS by C. M. Daniels

下】ドーバー航空券地の非2型の主義に立ってポーズ をする地上整備費。アメリカの戦闘機にくらっると日本 の戦闘機はいずれも小型軽量で、とくに軽戦といわれた この筆の前では、整備員はかなり大きく見える。ちなみ にこの整備員の上背は5ft10in(1 m75cm)(らい。

Flight line mechanic poses on left wing of Nakajima Hayahusa at Dover Air Base. The man appears large compared to the airplane and he was only about 5-feet, 10-inches tall.

(Photo by the Author)





(上)ドーバー航空基地の車2型。地上整備員が機内に乗り込んだり、各部にさわったりして点検中。この基地での飛行の結果、低空での運動性は、重いP-47サンダボルトにくらべるとはるかにまさることがわかった。

下)1945年8月19日、終戦処理の日本側予備交渉団を 乗せてフィリピンに飛んだ緑十字の三菱1式陸攻。途中、 沖縄の伊江島に寄って休息中の乗員たち。 ♦ Curious flight mechanics inspect captured Oscar at Dover Army Air Force Base, Delaware, 1945.

(Photo by the Author)

Crew of Japanese Betty surrender plane ait in shade of wing while negotiating passengers sue for peace, Ie Shima Island, August 19, 1945.

(From 8th Photo Recon Squadron Files)





[上] 1967年10月27日、パンナムの創立40周年を記念して19 28年の就役当時の強装としたフォード・トライモーター (5 AT・B、N9637・製造番号11)。同機は1928年12月31日にパンナムに引渡されたが、翌29年8月9日にCMAメキシカーナ航空に売却され、その後キューが航空。TACA、MRドロフィン・オーバートンなどを経て、1967年夏からラスペガスにあるシーニック・エアラインズの小会社グランドキャニオン・エアラインズの所有となり、グランドキャニオン南壁と北壁の離所を観光客を乗せて飛んでいる。アメリカに現存する飛行可能なトライモーター8機のうちの1機。

「下」ジェット機時代を迎えて、パンナムが最初に導入した 短ジェットのエアライナー、ボーイング707-121B(N707PA、 製造番号17587)"クリッパー・マリヤ"。同機は1958年1月30日 ニロールアウト、同年3月21日に初飛行して、パンナムには同 年12月19日に引渡された。1964年11月5日には、ボーイングで P&W JT3D-1エンジン付きの707-121日に改造され、同年 12月18日にパンナムに帰ったが、1972年にはパンナムのマイア

エアラインの翼

Pan Am's Planes

バン・アメリカン航空 ®

ミ・ベースに繋留され、1975年 2 月21日にトルコ航空に売却されて、TO-TBAとなっている。写真はマイアミ・ベースで撮影。

(Text & Pictures by K. Sasano)





ジェット軍用機の先輩たち

イギリス篇 10

ホーカー シーホーク ② HAWKER SEA HAWK

先月号につづいてホーカー社が初めて実用化したジェット戦闘機ホーカー、シーホーク。写真上と下は戦闘爆撃機型のF.B. Mic3、シーホークのなかでもっとも広く使われたのがこのMic.3で、生産機数は116機、主翼下の四つのベイロンに、500-16爆弾×2+88ガロン増橋×2または500-16爆弾×4、機震や3インチ、ロケット弾を装備することができた。下の写真の主翼下は超ガロン増橋。空気取入口上方の補助空気取入口が開かれているのに注意。胴体中央駆にエンジンを積んだたの操縦席は機首の

先端近くに設け、生産が容易なように主義は直線アーバーの薄 糞、エンジン排気を避けて水平風翼は高い位置に付けられてい るが、第一作としてはすっきりした外形のジェット戦闘機であ る。前輪式を採用したのも、ホーカー社では本機が最初であった。

右ページ 3 校はMk.3につづいて97機が生産された地上攻撃型のF.G.A.Mk.4。Mk.4では主難下のパイロンをあやして 3 インチ・ロケット弾が最大20発まで装備できるようになった。







写真では前ページと同じ(地上攻撃型のF.G.A.Mk.4. 1954年末には、海軍航空隊の5個スコードロンがこのMk.4 で順成、このころMk.1一3を装備した部隊を含めると、シーホータの装備部隊は10個飛行隊、英海軍の第一線主力 戦闘機であった。

写真上および名ページはシーホークの最終型であるF. G.A.Mk.6.Mk.1からMk.4はいずれも装備エンジンがロールスロイス・ニーン101(5,000-(b.st))であったが、推力を向上したニーン103(5,200-(b.st))に操装したのがMk.5とMk.6である。Mk.3のエンジンをニーン103に操発 したのかMk.5で、約50機が改造され、Mk.6はMk.4の機体にニーン103を積んだもので、これは改造機のほかに新たに46機が生産された。新エンシンへの換裂は速度の向上がねらいであったが、同時に採用を予定していた動力エレベーターの開発が、朝鮮戦争後の不況でキャンセルされたこともあって、最高速度は期待したほどのびなかった。Mk.6は1956年夏頃までに6個スコードロンに装備されたが、そのうち5個スコードロンは、同年11月。空母アルビョン、バルワーク、イーグルに横まれてスエズ動乱に出動している。

[F.G.R.Mk.67-9]

全編11.89m。全幅(主選折りたたみ時)4.04m。全長 12.09m。全高2.64m。全高(主選折りたたみ時)5.08m。 目置4.836kg、後大全備重量7,253kg、翼面模25.83m。エンジン:ロールスロイスRN4(ニーンMk.103.推力5,200

-Ib.st)

最大連度(クリーン)マッハ0.84(901km/h)/10.973m: (増糟 2 個搭載)マッハ0.80(853km/h) / 10.973m,高 度10.668mまで11分50秒。実用上昇限屋13.564m。



